






# 学 まなぶ・ガク

甲骨文 
 金文 
 小篆 

## 漢字の意味

「学」は旧字を「學」につくります。甲骨文は「」につくり、屋根に日本の神社でよく見る千木のついた建物です。千木は「」の形で、魔よけのしるしです。昔の子供は千木のついた神聖な建物で学んでいました。「教（教える）」は甲骨文を「」につくり、「子」の上に2つの「」がついています。「女（）」は手で棒をもつ形。できの悪い子は棒で頭をこちんとたたかれました。

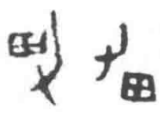
**熟語** がっこう がくもん がくげい がくゆう だいがく 学校、学問、学芸、学友、大学
 **※熟語** じゅくご に じいじょう かんじ ご（二字以上の漢字の語）



一年生

# 男

おとこ・ダン

甲骨文 

金文 

小篆 

## 漢字の意味

甲骨文は「田」と「力」を組み合わせた字です。「力」は田畑を耕すための

「すき」という農具の形です。農地と「すき」を組み合わせて、田畑を耕す人

をあらわします。昔は農地を管理する人のことを「男」といい、古くから「男」

の意味に使われました。



熟語 男性、男子、男優、男女、美男



一年生

# 王

オウ

甲骨文  金文  小篆 

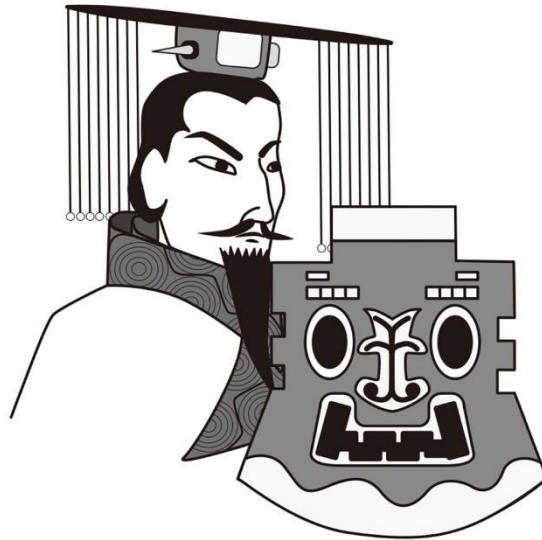
## 漢字の意味

<sup>おお</sup>大きな<sup>まさかり</sup>の<sup>は</sup>刃を<sup>した</sup>下に<sup>お</sup>く<sup>かたち</sup>して<sup>置く</sup>形。まさかりは<sup>おうさま</sup>王様の<sup>くらい</sup>位を示す<sup>ぎれいよう</sup>儀礼用

の<sup>はもの</sup>刃物で、<sup>せんそう</sup>戦争に<sup>か</sup>勝つ<sup>ゆうしや</sup>勇者をしめすに<sup>ふさわしい</sup>ものと<sup>さ</sup>されて<sup>い</sup>ました。王は<sup>おう</sup>神<sup>かみ</sup>

と<sup>いっばん</sup>一般の<sup>ひと</sup>人を<sup>むす</sup>結ぶ<sup>やくわり</sup>役割が<sup>あた</sup>与えられ、<sup>じぶん</sup>自分の<sup>こ</sup>子に<sup>だいだい</sup>代々その<sup>くらい</sup>位が<sup>ひ</sup>引き<sup>つ</sup>継がれました。

熟語 <sup>おうこく</sup>王国・<sup>おうさま</sup>王様・<sup>おうかん</sup>王冠・<sup>じようおう</sup>女王・<sup>まおう</sup>魔王

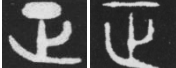


一年生

# 正




ただしい・セイ






甲骨文 

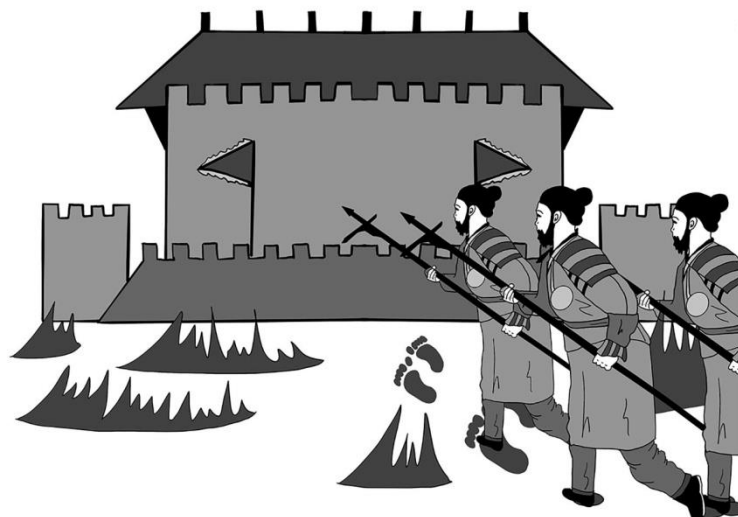
金文 

小篆 

## 漢字の意味

「」は城へきで囲まれた町、「」はあしあとの形で、「」に向かって  
すすんでいくこと、すなわち城を攻めることをあらわします。昔は、他の地に攻  
め勝って自分の土地にすることが「正しい」と信じられていました。

熟語 、、、、



一年生

# 村

むら・ソン

小篆 

## 漢字の意味

「村」の古い字は「邨」につくり、城の形を意味する「屯」とひざまづく人を横から見た形の「巴」よりなり、城の中に人がいることを示します。それで「邨」は人が集まり住むむらの意味になります。

熟語 むらびと 村人、そんみん 村民、そんちょう 村長、さんそん 山村、かんそん 寒村

